

第4回 印西市障がい者プラン策定委員会 議事録（要旨）

【日時】

令和5年11月8日（水）14:00～15:30

【場所】

印西市役所 農業委員会会議室

【出席者】

○委員

熊谷委員長、浅井副委員長、岡本(弘)委員、武藤委員、畑中委員、萱場委員、近藤委員、橋本委員、宇野委員、岡本(芳)委員、塚田委員

(欠席)

津金澤委員、飯塚委員、山崎委員

○事務局

障がい福祉課

○コンサルタント

株式会社ぎょうせい

○傍聴人

2名

【次第】

1. 開会

- (1) 会議録署名委員の指名
- (2) 本日の進行内容の報告

2. 議事

- (1) 素案について

3. 閉会

【配布資料】

- ・印西市障がい者プラン 素案

【議事要旨】

1. 開会

事務局：

ただいまから、第4回印西市障がい者プラン策定委員会を開会いたします。

(1) 会議録署名委員の指名

(署名委員に、浅井委員、近藤委員が指名された)

(2) 本日の進行内容の報告

(事務局より、「進行内容」について説明)

2. 議事

(1) 素案について

(事務局より、「印西市障がい者プラン (素案)」について説明)

○審議

委員長：

今の説明について、ご意見・質問等ありましたら、お願いしたいと思います。

A委員：

基本的には良いものだと思いますが、現在の事業をそのまま書いただけかと認識しています。できれば、印西市独自の施策もあって良いのではないかと思います。また、姿勢として、要望しておきたいこととしては、重度心身障害者医療費助成のことで、障がいによる差を無くしていただきたいと思います。

この前の市長の話では、「印西市の税収が増えている」と聞きました。ぜひとも、福祉の先進都市として、取組を進めていただきたいと思います。

また、障がい者が地域で生活していくために大事なものとして、事業所があります。事業所に対しての助成も、進めてほしいと思います。例えば、国では経験者に対する加算制度も示されていますが、印西市でも、「福祉の先進のまち」として先を行ってほしいと思います。

前回の策定委員会では、職員の定着率が悪いという話がありました。国の制度では、加算制度は10年の経験者という状態になっています。少なくとも10年間給料が変わらなかつたら、辞めると思います。そのため、市独自の加算制度も必要だと思います。印西市は、福祉で先に行くということも考えてほしい、特徴的なことをしてほしいと思います。

B委員：

A委員と同じで、長く職場に定着をしていただくには、それなりの給料を払っていかなければならないと思います。そうでなければ、良い人材が流出していくと思い、利用者にとっても「熱意ある職員がいなくなる」ことは、不利益な問題だと思います。印西市は住みよさランキングでナンバー1と言うなら、福祉もナンバー1になってほしいと思います。

C委員：

先日の新聞で、「保育士は奪い合い」という記事がありました。そのため、松戸市は独自に月4万の手当を出しているそうです。そうでなければ、東京の方が待遇が良いため、人材が東京へ流れる可能性が

あるからだと思います。

印西市は世界に誇る電算センターがあり、発展するところかと思えます。そういった部分に目を向けていくことも大事な事かと思えます。

委員長：

他に、ご意見はございますでしょうか。

C委員：

p.48に「ライフステージに沿った、切れ目の無い一貫した支援」とありますが、学校を卒業した時の連絡体制も重要かと思えます。

「切れ目の無い一貫した支援を提供する体制の構築」とは、具体的にはどのようなことを想定されていますか。

事務局：

お子さんのことに関して、印西市では「子どもガイドブック」を発行して、支援や検査の内容を記録しており、小学校から中学校に上がる場合も引き継いでいくというような体制があります。

C委員：

それは、コスモスファイルのことですか。

事務局：

そうです。

C委員：

活用の現状はいかがですか。

事務局：

大分前に発行されたものですが、継続して使われています。

C委員：

実際の教育現場からの意見では、小学校から中学校に上がった時、現場が忙しいこともあり、活用されていない気がします。得意科目などが書かれた一覧表の方が、重要視されているのではないのでしょうか。

保護者や教育現場からの意見も踏まえる必要があると思います。教育委員会との合同会議もあるので、活用方法について検討してはいかがでしょうか。

B委員：

コスモスファイルはいつからあるものなのですか。

事務局：

平成 22 年からあります。

A 委員：

コスモスファイルは、使い方によっては上の学校に上がった時に便利かと思います。しかし、チェックをするだけだと役割を果たさないと思います。

事務局：

ファイルができたいきさつとしては、障がいのあるお子さんが切れ目ないような進学ができるようにということで、できたものです。

当初は、学校側からはやることが多く、反発もあったと聞いていますが、国からの要望もあり、印西市では、「子どもガイドブック」を発行し、その中に「コスモスファイル」の仕切りが入れられるように作られています。

最初は、紙でできたファイルを発行していましたが、1冊だけだと無くすこともあり、また学校と保護者と同じものがないと、「保護者から同じことを聞かれる」という意見もありました。そこで、同じものを2つ発行することにしました。

就学前に子ども発達センターで保管している時には、子ども発達センターで発行したのと同じものを保護者に渡し、就学時には子ども発達センターのものを学校に引き継いでいます。それがないと保護者と学校側の頻繁なやり取りが必要で、情報共有が難しくなります。

担任の先生が変わるたびに、同じことを聞かれるのが苦痛だという意見もあり、ファイルは必要だと考えています。

指摘があったことは、教育委員会にも伝えようと思います。コスモスファイルの使い方という研修はしているものの、それが学校単位でうまく伝わっていないという課題もあると思います。

A 委員：

特別支援連携協議会はまだあるのでしょうか。

事務局：

まだあります。その下部組織として、担当者会議もあります。

A 委員：

その会議に、当事者の親は入らないのでしょうか。

事務局：

特別支援連携協議会は、昨年度から障がい者団体の方の名前は入っていません。

A 委員：

障がいのある子どもの親が1人入っていると、要望も言えるかと思います。検討していただきたいと思います。

事務局：

ご意見があったことは伝えます。

委員長：

意見としてありました、印西市独自の施策や助成はありますか。印西市では、全国に先駆けて障がい児の学童を開設していたケースもあると思います。

事務局：

重度心身障害者の医療費助成は以前から要望があったものですが、現在、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方で、2級の方が400名程度います。実際には、重度心身障害者医療費助成だけではなく、障がい福祉の予算が毎年2億円くらいずつ増加している状況です。このあたりで、何をブラッシュアップするかは、考えていきたいと思います。

事業所への助成に関しては、事業所自体が県の指定になっていますが、他の市町村も踏まえながら研究してみたいと思います。

D委員：

地域生活支援拠点の記載がどこにもないと思います。「親亡き後」が課題であり、何かしら計画書にも書いた方がよいと思います。

事務局：

いただいた意見は参考にさせていただきたいと思います。

E委員：

印西市独自の事業があるのかないのかというところと、社会福祉課にコンシェルジュを置いたり、就労相談員を置いたりなど、印西市独自の取組もあるのではないかと思います。「印西市の独自事業」みたいなものを表記しても良いかと思います。

p. 8に、「精神疾患が増加傾向にあります」とありますが、「てんかん」は増えているのですか。

事務局：

全体的にみて増えていると書いていますが、「てんかん」が増えている実感はないと思います。全国的な傾向で書かれているので、印西市のことだけ示しているものでもありません。

委員長：

印西市独自の事業を記載したらどうかという意見もありましたが、いかがでしょうか。

事務局：

次回の会議の「各論Ⅱ」で、扱う予定です。

F委員：

p. 18に不足している、または今後不足すると思われる障害福祉サービスについての事業所へのアンケート

ート結果が記載されていますが、不足するサービスについて、どのようなことを考えていますか。

事務局：

p. 51 の「取組1 住まいの支援」の「(1) 地域生活への移行支援及び入所施設等への支援」にあるような形で対応したいと考えています。

F委員：

計画では、市として必要なサービスの量を示すものかと思いますが、実際にサービスを提供するのは、事業所なので、事業所が手を上げるような施策を市では考えているのでしょうか。

事務局：

国の補助金が付く場合には、市でも事業所に対し施設整備についての補助を行っています。

F委員：

国が補助金を出す時には、市でも補助金を出すと思いますが、p. 18にある不足すると思うサービスのすべてに補助金が付くのではないと思います。国が補助を出さない事業にも、市独自で補助があれば良いかと思います。

A委員：

市長は、何度も「先進都市を目指す」と言っています。だからこそ、独自施策が必要だと思います。例えば、前から要望を出していますが、サテライト型のグループホームを市で運営することも考えられます。日本の先端を行けるようなことをしていただきたいと思います。

G委員：

p. 43 でハローワークとの連携が示されており、大事なことだと思いますが、「なかぼつ（障害者就業・生活支援センター）」との連携も多いので、記載しても良いかと思いました。

事務局：

検討したいと思います。

C委員：

p. 49 (1) (2) に関して、先ほど委員長から学童についての話が出たかと思いますが、障がいのあるお子さんが学童からはじかれるということで、F委員を中心に、「ないなら作ろう」という意見があり、全国初の「障がい児学童保育所」を開設しました。

学童の現状については、ハンデがある子が来ると補助員が必要ですが、それに対して補助金も出ないので、はじかれてしまう。そういう子どもの行き場が、クリオネクラブになっています。補助金などが出ない場合、大変なことは避けられてしまいます。H委員に現状を聞きたいと思います。

H委員：

学童保育を行なう事業所では、最低でも年2回の研修を行うことになっていますが、障がい児の研修

の時間が一番多くとられています。近隣の保育所の方の意見を聞きますと、障がい児に関する経験がない人は、勉強をしなければならず、障がい児1人に対し、1人の担当者を配置することはできないと思います。

私が所属する事業所でも、1人心配なお子さんがいることから、4人必要なところを5人配置しています。ただし、その分の加算が出るわけでもないので、補助をいただければ助かります。

C委員：

事業所でできること、市でできることがあると思います。先ほどから何度も「市独自」の事業が話題になっていますが、学童や学校も含めて考えていかなければならないことかと思えます。

「(2) 特別支援教育の支援体制づくり」で、「共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進を支える学校体制づくりに努めています」とありますが、先生も色々な研修を受けています。担任の先生も変わります。

特別支援教育は教育の原点であり、私は1番優秀な教員を配置しました。研修も大事ですが、実践の中で学ぶこともあると思います。

A委員：

支援級の問題について「支援級の先生は特別な訓練を受けていない」と聞いています。「学習指導員や介助員を学校に配置し」と書いてありますが、次回の策定委員会の際に、実態を教えてくださいませんか。

事務局：

教育委員会に確認して、次回お伝えします。支援級でなく、支援学校のことでしょうか。

A委員：

両方とも知りたいと思います。障がいのある子どもは親として心配です。

F委員：

教育委員会のネットワーク会議にも出席しましたが、今年度に進捗した部分としては、介助員が増えたことです。また、お子さんによっては検査が必要ですが、予約して半年待ち、1年待ちということもあります。委員会で検査が受けられるようになったのですが、検査の件数が1桁なので、来年からまた増えることかと思えます。

印西市は人口が増え、通常のクラスでも先生が足りないという問題があります。人が足りないという問題は、福祉だけでなく教育にもある現状をお伝えしたいと思います。

委員長：

計画書のレイアウトはいかがでしょうか。

コンサルタント：

他の自治体と比べ、ルビの有無の違いはあると思います。印西市では、全文にルビを振っていません

が、必要な部分にルビを付けようと思います。また、文字の大きさは 10～12 ポイントを基本としているので、大きすぎず、小さすぎずというところかと思いますが、これは意見をいただきたいと思います。この他、基本目標ごとに色分けも行っています。

C 委員：

現行計画には事業所から送られた絵が掲載されていますが、1つの事業所しかありません。これは、多くの事業所から集めたものの、結果として1事業所しか作品が送られなかったのですか。

事務局：

前は絵の掲載を急遽決定した事情がありましたが、今回は、色々な事業所に依頼したいと思います。

G 委員：

ぜひとも、表紙に障がいのある人の作品を載せていただきたいと思います。

D 委員：

自立支援協議会について、あまり書かれていないと思いますが、もう少し触れても良いかと思っています。

事務局：

参考にさせていただきます。

G 委員：

p. 35 の「福祉人材の育成・支援」で、事業実施の方針が少し簡単になっているような気がします。「関係機関との協力」など、具体的なことが示せるならば、そのようにできたらと思います。

委員長：

「福祉人材の定着」について、検討していただきたいと思います。

F 委員：

p. 35 の最後の行で、「魅力的な職場」の後にスペースがあります。

事務局：

修正します。

F 委員：

「相談支援」が重点事項となっていますが、相談をして何をするのでしょうか。相談件数が増えるだけでは、何も変わらないと思います。

事務局：

相談支援については、相談いただいた方と事業所をつなぐことはしています。足りない部分もあるかと思いますが、それが実態です。

委員長：

ハードだけ造ったとしても、事業が継続しないと意味がないので、「なぜ続かないのか」ということも含め検討いただきたいと思います。

3. 閉会

事務局：

第5回策定委員会につきましては、12月下旬を予定しております。